http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

１１月号　　第２１９号
発行日　平成２１年１１月１日（日）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子市散田町３－３４－３
ＴＥＬ　（０４２）６６３－７６７６
発行人・渋谷　昭男
編集者・杉渕　清

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

秋の碁と川柳

碁楽連理事　　刀根　正樹

秋である。もの思う秋。囲碁を思う秋。ススキが川原に穂をなびかせ、女郎花やコスモスが微笑する。

秋は、碁楽連の行事が目白押しである。新型インフルエンザの嵐の中、老人達は元気である。持病のある人々も、楽しげに参加している。碁には薬のような効能があるらしい。

秋は酒のうまい季節でもある。駅前の養老の滝で、秋刀魚を肴に、日本酒をくみかわす。最近私は、川柳にこっている。芭蕉の句を囲碁の風景になおし、楽しんでいる。今宵は碁友に披露した。

「秋深し　隣の碁盤が　気にかかり」

「芭蕉の句、隣は何をする人ぞ、の替え歌か。そういえば君は、隣の試合ばかり見て、自分の手を忘れる。時計の針はどんどん進む」

「閑けさや　碁盤にしみ入る　虫の声」

「岩にしみいる蝉の声のまねか。秋には蝉はいないから、鈴虫かコオロギか。それとも君の腹の虫か」

「無惨やな　石をとられた　キリギリス」

「甲の下のキリギリスをもじったか。敗れた君の顔はキリギリスにそっくりだよ」

「石よ動け　わが泣く声は　秋の風」

「塚も動け、と芭蕉は知人の死をいたんだ。君は自分の敗けを悲しみ、石よ動けとわめいておる」「大原麗子が死んだ夜、私は号泣した。広島の原爆の日だった。藤沢秀行が五月、八十三で没した時には、ショックを受けたが、涙は出なかった」「酔虎の遠吠えに、大原麗子もさぞ驚いたことだろう」

「菊の香や　北野は古き　碁友たち」

「これはいい。奈良には古き仏たち、という芭蕉の句よりも、ずんと胸にしみわたる。それにしても古い碁友、なつかしい人々が去って行った。時の流れか」

「月日は百代の過客にして、行き交う碁友も、また旅人なり。碁盤の上に生涯を浮かべ、石を握って老を迎うる者は、日々碁の旅にして、旅を住家とす」

私はふと、旅に出たいと思った。八高線を北に上り、伊香保か草津でひとり湯につかり、川柳をひねりたい。人生の末期に、心はささやかな休息を求めていた。

「枯れススキ　風に吹かれて　湯の里へ」

「残菊や　碁仇どもが　夢の跡」

「名月や　石をめぐりて　夜もすがら」

第 19 回活きいき囲碁大会の結果

･長房大会　１０月４日　長房ふれあい館

参加者

長房	北野	台町	恩方	淺川	大和田	中野	元八	川口	合計
２３	６	６	３	２	３	２	３	２	５０

Ａクラス　１６名

優勝　塚原和利　長房／７段　準優勝　廣島松治　川口／５段　３位　安西　実　長房／５段

Ｂクラス　１７名

優勝　河津秀雄　北野／３段→４段　準優勝　川村英二　長房／３段　３位館内茂　北野／２段

Ｃクラス　１７名

優勝　矢島一雄　川口／２段→３段　準優勝　阿部　惺　恩方／１級　３位　中込義弘　長房／２級

･川口やまゆり大会　１０月１８日　川口市民センター

参加者

川口	恩方	元八	台町	北野	長房	石川	大和田	中野	計
２１	１４	７	６	４	４	１	１	１	５９

Aクラス　２０名

優勝　松田礼治　石川／４段→５段に昇格　準優勝　若穂囲廣志　川口／７段　三位　入山慧三　元八／５段

Bクラス　２０名

優勝　田中秀司　川口／２段→３段に昇格　準優勝　田中正勝　恩方／２段　三位　橋本岩雄　川口／４段

Cクラス　１９名

優勝　小峰貞雄　恩方／初段→２段に昇格　準優勝　矢部藤昭　川口／１級　三位　阿部惺　恩方／１級

第 20 回地区団体対抗囲碁会の結果

◎第４回地区対抗団体戦の結果　　９月１３、２７日

長房１０勝	市川隆一６段　戸谷富美雄５段　松井　豊４段 佐々木慶兆３段　内田正亮３級　端山健次４級
大和田８勝	藤井忠明７段　豊田弘伯５段　岩松　清４段 井出道明２段　細田正光初段　山中　茂２級

北野８勝	石坂慶通５段　笠原昭治４段　山本金昭４段 河津秀雄３段　古屋常男３段　甲斐正憲２級
石川１０勝	坂本勝雄７段　松本健彦６段　石川幌二４段 大山芳雄４段　田村　強３段　本間邦夫初段

◎第５回地区対抗団体戦の結果　　１０月１１日

淺川１０勝	木村一男６段　松見勝義６段　池田　悟４段 小林富男３段　海老沢喜好２段　中村益大２段
台町８勝	吉田信夫６段　宮川将美５段　市川公雄４段 古賀憲秀３段　本橋　茂２段　飯田清志初段

元八王子１５勝	山下則文６段　中村幸雄５段　入山慧三５段 長島　廣４段　武居成市３段　森本通俊初段
恩方３勝	五十棲健一５段　斉藤　健４段　富塚　修４段 山崎　稔４段　田中正勝２段　小久保捷郎初段

大和田７勝	秀島照次４段　鈴木浩治４段　佐藤久雄３段 栗原久男２段　大里　宏初段　高橋敏彦１級
中野１１勝	磯部信広６段　清水文彦６段　宮崎誠一５段 六本木茂３段　森本康男３段　濱道　進２段

石川 13 勝	坂本勝雄７段　金本好正６段　水野義嗣４段 田村　強３段　本間邦夫初段　福田博行３級
長房５勝	藤盛　茂５段　安西　実５段　小沢美智子４段 森久保啓二３段　高橋俊之３段　小沢公雄５級

川口やまゆり７勝	松崎幸雄７段　松崎邦夫６段　山本乙文３段 田中秀司２段　小俣准一初段　矢部藤昭１級
由木１１勝	信江　峻７段　岡部隆男６段　奥山武平４段 唐木　伸２段　穂積宏易２段　菊地武男初段

いずれも上段が主催チーム

地区団体対抗戦　優勝は石川寿同好会

今年の地区団体対抗戦は、10 月 11 日を以って終了しました。年間の各同好会別の戦績は下表に示すとおりです。今年も昨年に引き続き石川同好会の完全優勝でした。

	1	2	3	4	5	勝率	順位	級位者延出場者数
	5/17	6/14	7/19	9/13	10/11			
淺川	1	1	1	0	1	0.8	2	1
恩方	0.5	0	0.5	1	0	0.4	6	3
元八王子	1	0	0		1	0.5	5	3
中野	0.5	1		0	1	0.6	4	0
大和田	0		0	0	0	0.	11	4
石川		1	1	1	1	1.0	1	2
台町	1	0	1	0	0	0.4	6	3
由木	0.5	1	0.5	1	1	0.8	2	3
北野	0	1	0	0		0.25	10	1
長房	0.5	0	0.5	1	0	0.4	6	7
川口やまゆり	0	0	0.5	1	0	0.3	9	3

研修部囲碁大会・研修会の結果

１．平成２１年度研修会前期昇格者

（1）東淺川研修部

氏　名	段級	所属	出席日数	勝数	負数	勝率（%）	昇格
長尾昌彬	2段	恩方	12	22	7	75.9	→3段
今井俊郎	3級	台町	15	47	8	85.5	→2級
溝呂木久雄	2級	恩方	15	33	7	82.5	→1級
石賀正嗣	2級	長房	16	31	8	79.5	→1級
佐久間新太郎	4級	淺川	16	34	10	77.3	→3級

（2）南大沢研修部

氏　名	段級	所属	出席日数	勝数	負数	勝率（%）	昇格
新井勝雄	1級	無所属		39		71.1	→初段

2.研修会大会

（1）東淺川研修大会　平成21年9月19日

	優勝	準優勝	3位
Aクラス	大河原　静 5段／北野→6段に昇格	大塚　宏 台町／4段	廣島松治 5段／川口
Bクラス	正岡得達 初段／淺川→2段に昇格	佐藤吉男 ２段／北野	田中正勝 2段／恩方
Cクラス	溝呂木久雄 1級／恩方→初段に昇格	武発悦子 1級／淺川	大房賢次 1級／長房
Dクラス	岡田禎造 ４級／台町→3級に昇格	伊藤保江 3級／大和田	白田泰夫 4級／長房

（2）南大沢研修大会

	優勝	準優勝	3位
全員同一クラス	加藤謙一郎 9級／無所属→8級に昇格	今井淳一 ３級／無所属	和田幸彦 2段／由木

◎第５回碁楽連理事会報告

日時　平成２１年８月２２日(土)9:00～11:00　東淺川センター

出席者　渋谷、刀根、塚原、望月、渕上、真辺、端山、杉渕

1.市民文化祭囲碁大会の詳細実行態勢確認

2.碁楽連の各囲碁大会の準備作業の洗い出し

◎氏名の訂正

前号（10月号２ページ）で副会長を望月誠一氏と紹介しましたが、正しくは望月成一（しげかず）氏です。ここにお詫びし訂正します。

◎同好会だより

囲碁は敗者のないゲーム

―結果よりプロセスが重要―

台町寿囲碁同好会　　高本　衛
（日本棋院終身名誉会員　七段）

囲碁は広大な盤上のどこにでも（禁じられている場所以外）石を打つことが出来る極めて自由なゲームであり、考え得る局面数はある試算によると 10^{360}　通りもあるそうで、その局面の如何を判断することはスーパーコンピュータをもってしても到底不可能と言ってもよい無限の宇宙のような世界である。

さて、囲碁は一手一手の積み重ねによって局面を展開するわけであるが、実力・技量はさておいて一手ごとに自分なりに打ちたいと思った所に打つことを心掛けるべきで、その手の善し悪しは別の次元の問題であり、また相手がいるので当然ながら自分の思い通り行くはずはない。また、展開次第では様々な「手」を考えなければならないが、この時こそが囲碁の最も楽しい場面であり、対局者を幽玄の世界へ誘ってくれる。

ところで、囲碁は対局者同士の個性や人格を尊重し、棋理を駆使しながら共同で創り上げる一種の「作品」なので、双方が共に楽しみながら作品づくりに協力する必要がある。そのためには勝ち負けは単なる結果であって、最も重要なのはその「プロセス」にあり、これこそが囲碁本来の醍醐味なのである。したがって、敗者も作品づくりの一方の担い手であるが故に、敢えて言えば「囲碁は敗者のないゲーム」と言っても過言ではない。

一方、低段者は別として、高段者（少なくとも５段以上）の中に、２０目・３０目といった大差にも拘らず最後まで延々と打ち続け、相手のミスや「時間切れ」を待つといった打ち手が少なくないが、下手をすれば人間性を疑われることにもなりかねない。スポーツとは異なり囲碁には「中押し勝ち」という伝統的な精神があるので、勝つ見込みなくなった時点で潔く投了することを心得るべきでしょう。

さらに、お互いほとんどが高齢者なのだから、あまり勝敗にこだわらずに内容を重んじるよう努めれば、囲碁の持つ素晴らしい世界に浸ることができるのではないでしょうか。

編集後記　　名人戦第５局をインターネットでライブ観戦した。非常に面白かった。まさに白兵戦、いつの間にか引き込まれ、観客のこちらが疲れ果てた。戦い終わった後、井山八段が世界戦への意欲を話していたのが印象的でした。若い人達が高い目標をもって精進するのは、頼もしい限りです。それにしてもライブ観戦は疲れる。